



人類は長い歴史をかけて文明を築いてきた。  
血と汗と涙の縦糸に時の横糸をつらねて文明を  
つくり上げてきた。

そしていままた、人類は有史以来もっとも栄えたど  
する自信に満ちあふれて、次の世代への歩みをさらにつ  
つける。「近代技術」という武器を携えて——

文明はすでにある文明に今日を重ねてさらに高峰へと  
のぼる。そして、建設者は文明の使徒として、今日に明日を  
重ねると、そこに破壊というアクションが加わる。古き皮  
袋に美酒を盛る場合は少なく、今日の多くは容器も近代技術が  
あわせつくり出す。創造に参画する者は、常に考えなければなら  
ない。建設とは何か、開発とは何か、そして環境とは何か、自然と  
は何なのかと。文明は今日をまたずに進んでゆく。そして、建設者は  
その進路を忠実にトレースしてゆく。考えなければいけない。われわれの  
仕事は人間にとって何であるのかと。

会誌編集委員会は、いままでにも数多くの論文や特集を中心に「開発」「建設」など  
と称される土木技術の破壊性を帯びた性格と文明への参画のかかりあいについて考えてき  
た。特に第51巻第1号の特集においては、48ページを費してこの問題と取り組み、その時点で土木  
技術者側の考えを中心にその意図しているところを述べた。それから5年——いまは当時にもまして世論の  
たかまる問題となった。

——われわれを包む生活圏の敵対者の一員と目されて——

そこで、今回はこの問題を重ねて考えることとして、多くの専門と異にする方々を中心に話題を提供していただく  
こととした。経済、生態学、観光、建築、考古学、そして科学史の各分野の方々である。これらの専門を異にする方々の  
意見を第1編として、開発の現場のホットな話題を建設側の立場から述べた第2編、作家・木本正次氏の開発随想をもっ  
て3編構成の特集「開発と保護」を組んだ。

多くの貴重なご意見も、立場立場で波立つ話題とはなるうか、すべてよりよき明日の創造への糧となることを祈りたい。  
特集をするにあたって、玉稿をお  
よせいただいた各位、また企画等  
に参画された各位に深く感謝する  
次第であります。会誌編集委員会

## 特集・開発と保護